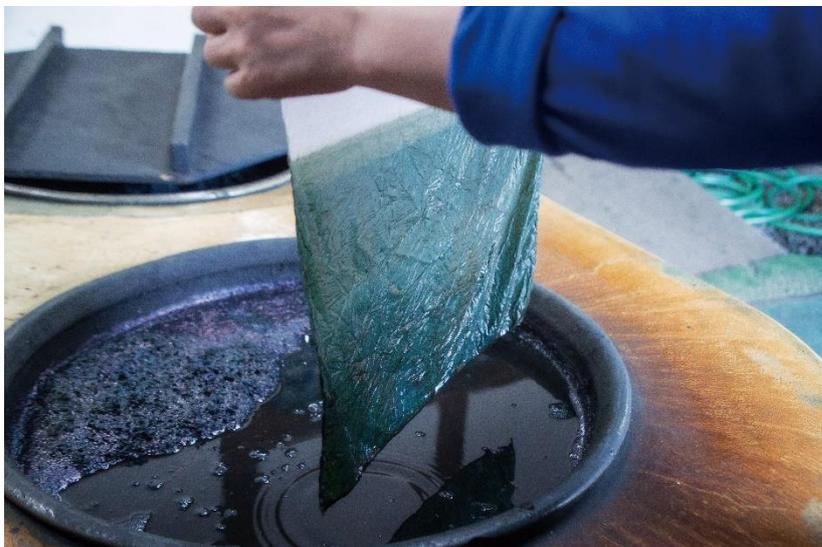


徳島県で藍染め体験をしてみませんか？



古くから日本人の生活に深くかかわり、神秘的なブルーといわれた藍。「阿波藍」とは、徳島で製造される天然染料のもととなる「すくも」のことで、藍師と呼ばれる職人が昔ながらの技法を用い、タデ科の植物である藍の乾燥葉を発酵させて作ります。

徳島県では、吉野川の肥沃な平野部で藍の栽培が盛んに行われ、阿波藍によって大きな富を得た商人たちによって、「阿波人形浄瑠璃」や「阿波おどり」などの個性豊かな文化が育まれました。1900年代初めには、徳島の藍栽培の面積がピークを迎え、約15,000haまで増えました。

1900年代以降は合成藍の輸入が増え、阿波藍の生産量が激減しましたが、現在は、天然藍の持つ美しさや自然な風合いが見直されています。また、東京オリンピック・パラリンピックの公式エンブレムにも「藍色」が採用され、徳島が世界に誇る「阿波藍」はますます脚光を浴びています。

徳島県には藍染め体験のできる工房や施設がたくさんあり、専門の方の指導のもと、気軽にハンカチなどの藍染め体験をすることができます。オリジナルの作品づくりにチャレンジしましょう。藍染めの扇子やバッグは、お土産にもオススメです。

